

**MULTICULTURAL CENTER TOKYO**

# **Annual Report 2010~2011**

2010 年度事業報告書  
2011 年度事業計画書



特定非営利活動法人 多文化共生センター東京  
**MULTICULTURAL CENTER TOKYO**

## 総括

2001年に多文化共生センターの一拠点として「多文化共生センター・東京21」を開設して今年で10年目を迎え、2006年に独立して「多文化共生センター東京」となって5年目を迎えた。この間、外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業は大きく拡大し、外国にルーツをもつ子どもたちの教育、とりわけ学齢超過の子どもたちの高校進学支援についての団体の認知度は高まった。

教育事業の中心に位置する学齢超過の子どもたちの学び場「たぶんかフリースクール・昼クラス」は、生徒数は年々増加傾向にある。しかし、高校進学の壁は年々高くなり、フリースクール生をはじめ、来日間もない子どもたちにとって厳しい状況が続いている。学校に入りたくても日本語や教科を学ぶ場がないという状況も一向に改善されず、あちこちで「たぶんかフリースクール」のような教室の必要性が認識されてきている。

今年度は荒川区の「ハートフル日本語適応指導（通室による初期日本語指導）」が新たに始まり、荒川区立中学に編入した生徒が「たぶんかフリースクール」に午前中、週4日通い、初級日本語を毎日学べるようになった。「ハートフル日本語適応指導（補充学習指導）」と合わせて5か月の日本語学習が保障されるようになった。また、今年度新たに「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもへの就学支援事業）」を文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）から受託し、不就学や不登校の子どもたちを公立学校へつなげる活動も始まった。

調査活動では、6冊目となる調査報告書を発行した。従前の調査に加え、新たに外国ルーツの子どもたちの高校進学アンケート調査と「たぶんかフリースクール」生の受検状況を分析し、外国ルーツの子どもたちの高校受験・進学の実態と問題点を整理し、提言につなげている。作成した調査報告書を基に、行政に対して具体的な働きかけが求められている。

外国人家族と子育て支援事業は、文化庁「『生活としての外国人』のための日本語教育事業」の委託をうけて「親子日本語クラス」を継続してできたことで、日常生活で分からないことを聞けたり、日本語で話す場として大人・子どもともに「居場所」となっている。運営もボランティアベースで定着し、子どもプロジェクト（学習支援）と共に、ボランティアベースの活動が充実した。

ボランティア活動については、自主的な活動が活性化し、勉強会やボランティアミーティングなどボランティア同士の親交を深める活動も多くなっている。ただ、一部ボランティアについては明らかに負担増になっている面もあり、スタッフとボランティア間の連携もより一層必要になっている。

「たぶんかフリースクール」の規模が拡大し、それに伴い組織規模が年々拡大する中、課題も多い。今年度は認定NPOにむけた申請やHPのリニューアル化も行い、スタッフだけでは仕事をこなさきれない状況が続いた。スタッフの入れ替わりもあり、「たぶんかフリースクール」の担任・講師及びボランティアの担う活動が大幅に増えた。活動に対する有償部分の明確化と、有償活動の拡大化が課題となっている。

# 2010 年度事業報告

## 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業

### ■たぶんかフリースクール

日本の中学校に入れず、学ぶ場や居場所のない子どもたち（学齢超過生と中学卒業者）や、来日期間が浅く日本語の初期指導が必要な子どもたちに対して、毎日通えて日本語と教科を勉強できる学びの場と居場所を提供し、最終的には高校進学につなげることを目的とし実施した。また、不就学や不登校の子どもたちを公立学校就学へ繋げるための「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもへの就学支援事業）」（※以下「虹の架け橋教室」）も実施した。



たぶんかフリースクール授業風景

【開催期間】 2010 年 4 月～2011 年 3 月

【生徒数】 110 名（小学 2 年～） 高校進学者数 41 名（東京都・埼玉県・千葉県）

【講師数】 担任：3 人 講師：40 人（日本語・教科等）

【内容】 子どもたちのための日本語指導と教科指導・高校進学のためのケア

#### ◆朝クラス： 9:00～12:00 週 4 日

荒川区「ハートフル日本語適応指導（通室による初期日本語指導）」対象生徒、及び義務教育段階の不就学や不登校の子どもたち（虹の架け橋教室対象生徒）が学んだ。

#### ◆昼クラス： 13:00～16:20 週 4 日

学齢超過の子どもを主な対象に、読み書き、読解力・思考力、高校入試を視野に入れた授業を行っている。今年度は、非漢字圏の生徒の増加や、多国籍化が目立った。8 月の夏季集中講座では去年と同様、「たぶんかフリースクール」に所属する生徒以外にも、普段は昼間の公立中学に通う中学 3 年生も参加し、昼夜クラス合同で授業を行った。

#### ◆夜クラス： 18:00～20:10 週 2～4 日

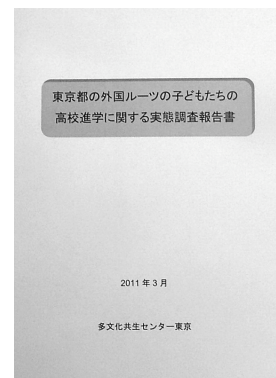
荒川区「ハートフル日本語適応指導（補充学習指導）」対象生徒（小学 5 年生～中学 3 年生）は原則週 3 回、中学 3 年は週 4 回、高校受験に向けて教科（英語・数学）も学んでいる。生徒数は延べ 37 名と昨年度より増加した。

## ■ 教育相談

主に電話およびセンターでの面接による相談で、来校での相談件数は 99 件で微増した。相談内容は日本の小中高への編入に関する相談及び日本語、学習指導についての相談が多いが、「たぶんかフリースクール」の保護者から経済的に授業料の支払いが困難になっての相談がますます増えている。また、卒業生からは大学進学等の進路に向けての相談及び大学卒業に伴う就職についての相談が寄せられるようになった。市区国際交流協会などが実施する「リレー専門家相談会」に 3 回、教育に関しての専門家相談員を派遣した。

## ■ 調査活動

「東京都の外国ルーツの子どもたちの高校進学に関する実態調査報告書」を作成。内容は 2008・2009 年東京都「学校基本調査報告」及び「公立学校統計調査報告書【学校調査編】」及び進路ガイダンス参加者からのアンケートを分析、今年度は新たにアンケート調査による東京都の高校進路調査を実施、214 名の進路について詳細な調査を実施し、主に来日 3 年未満の生徒の高校受検における問題点を明らかにした。



## ■ 日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス

武蔵野市国際交流協会、ピナット、OCNet、IWC、八王子国際協会、CCS、多文化共生教育研究会、多文化共生センター東京、CTIC の 8 団体の構成となる実行委員会形式で多言語による高校進学ガイダンスを開催した。7 月 4 日（広尾）、7 月 11 日（武蔵野）、10 月 3 日（広尾）、10 月 24 日（蒲田）、10 月 31 日（八王子）の 5 回開催され、うち広尾 2 回分の事務局を当センターが担った。



ガイダンスでは、外国出身の中学生や学齢超過の子どもとその親に対して、学校の制度や高校進学についての具体的な情報を提供すると同時に、ボランティアや NPO による学習支援等につなげ、ガイダンス後のフォローも行った。7 月 4 日は 122 名、10 月 3 日は 108 名、5 回あわせて 427 名（172 家族）の参加があった。（2009 年度は 3 か所合計で 361 名・205 家族）

その他、新宿区未来創造財団は単独で 2 回のガイダンスを実施し、うち 1 回の運営を当センターが受託した。

2011 年 1 月 23 日には、主催者交流会が埼玉県で行われ、10 都県から 46 名の参加があり、当センターからも 3 人が参加した。



## ■ 子どもプロジェクト（ボランティアによる日本語と教科の学習支援と居場所づくり）

ボランティアベースでの日本語と教科の学習支援を週1回、基本的には個別対応で行った。

日時：毎週土曜日ー15：30～17：30

参加人数：約60人（合計）

ボランティア人数：約40人

※1回の参加者数子ども10～30人

ボランティア5～20人



## ■ アクティビティ

2010年度も企業からの助成などがあり、前年度に引き続いて、フリースクール講師・ボランティアの協力も得て多くの校外学習等を実施することができた。

### 1 5月30日 横浜 社会見学

ボランティアが「横浜ドラゴンボートレース」に参加するにあわせて、ボートレースを応援し、あわせて氷川丸、横浜開港資料館の見学を行った。子ども、ボランティアやフリースクール講師ら35名の参加があった。UBSグループの寄付金を活用した。

### 2 7月17日 池袋 カラオケ交流会

Gapジャパンの支援により、フリースクール生と講師ら28名が参加し、池袋「がんばれ！子供村」にてカラオケの交流会を行った。



社会見学・バス内の風景

### 3 10月24日 茨城 社会見学

UBSグループの寄付金により、フリースクール生と講師ら72名が参加し、社会見学を行った。つくば市にある産総研の地質標本館で、日本列島の成り立ち、地震の起きるメカニズムなどを学んだ。また、国営ひたち海浜公園を訪ね、自然の中でバレーボールなどの屋外レクリエーションを楽しんだ。

### 4 11月5日 渋谷・新宿 職業体験

Gap財団から支援を受けて実施している、フリースクール「キャリアデザイン」事業の一環として、8名の生徒が研修の後、Gapジャパンの2店舗でバックヤード業務の職業体験を行った。指導のもと、洋服をたたんだりサイズごとに分けたりという作業を体験した。

### 5 11月19日 代々木公園 1000人のキャンドルメッセージ

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが、子どもの貧困問題の解決へむけて「1000人のキャンドルメッセージ」という催しを行ない、全国の子どもたちが夢をキャンドルに書いて届けた。たぶんかフリースクールからも33人がさまざまな言葉や絵でメッセージを届け、11月19日には代々木公園でキャンドルに明かりが灯され、8名の生徒が足を運んだ。

## 評価と課題

2006年に「たぶんかフリースクール」をはじめ、委託事業など様々な教室が展開されるようになり、朝9時から、夜20時まで入れ替わり立ち替わり子どもたちが勉強に来るようになった。そしてその分、「たぶんかフリースクール」にかかわる仕事量とスタッフ・講師・アシスタントの人数が増え、より組織的な運営が課題となっている。

### ① 荒川区教育委員会との連携

今年度は荒川区との連携によるハートフル日本語適応指導事業(通室学習指導)が始まった。これにより、外国から来日して荒川区の中学校に編入した中学生が週4日、1日3時間「たぶんかフリースクール」に来て、集中的に日本語を学ぶことができるようになった。2008年に荒川区の小学校5年～中学3年の初期指導修了者を対象としたハートフル日本語適応指導事業(補充学習指導)と合わせて、荒川区の中学生は最大5カ月の日本語指導が可能となった。荒川区の中学校とも連携が取りやすくなり、補充学習指導への移行もスムーズで、初期指導を終えた生徒は100%補充学習指導を受けられることとなった。5カ月の補充指導修了後も「たぶんかフリースクール」の夜クラスで継続して学習を希望する生徒も多く、今後は日本語初期指導から学習言語の指導法が課題となるだろう。また、生徒数の増加に伴い、7月以降は中学3年の高校受験指導が中心になってきているが、学習言語の獲得につなげるための教科学習の充実には遅くとも中2からの学習言語(週4日)の保障が課題である。

### ② 「虹の架け橋事業(定住外国人の子どもの就学支援事業)」(文部科学省の拠出を受けた国際移住機関(IOM)から受託)

当初、東京での義務教育段階の不就学・不登校生徒の所在については、現状がなかなかつかみにくい状態にあり、「虹の架け橋事業」の委託を受けるに当たり、募集する目標生徒数は極力抑えた人数で申請した。ただ、荒川区でのハートフル日本語指導がスムーズになり、少しずつ学校との情報交換ができるようになった。また、教育相談を経ての問い合わせも増え、不就学・不登校生徒が本教室に入室するようになった。本教室在籍中に公立学校就学へ向けて準備を行い、ほとんどの生徒が公立学校に入学・復学できた。

### ③ たぶんかフリースクール(昼・夜)

4月の生徒については、1月～3月に来日して待機状態であった子どもたちの受け入れから始まり、8月の夏季集中講座以降生徒が多くなり、受験期には50人程度になった。東京都・埼玉・千葉の1都2県の学齢超過生徒が通っているが、中学の編入生が増えており、一部高校現場(特に外国人特別枠のある高校)では、面接で授業について行ける生徒かどうかの見極めに重点が置かれているケースがある。そのため都立の外国人特別枠は2校に広がったが、来日期間の短い「たぶんかフリースクール」生の外国人特別枠での受験は例年に比べて大幅に減った。また昨年まで都立で3教科受検だった2校が5教科受検に切り替えたため、受験可能な3教科受験の高校は極端に少なくなった。来日年数の短い子どもたちは結局3教科受検プラス面接のある高校に集中した。その結果、面接練習が大幅に増え面接指導體制の充実が課題となった。「たぶんかフリースクール」で学んだ生徒は、来年度再受験を目指す1人を除いて、41人が高校に進学したが、選択可能な受検校が少なく子どもたちが希望する昼間の高校が不合格となり、例年に比べ3部の夜間部及び夜間定時制への進学が増えた。

また、不況の影響で学費や交通費の支援の必要な家庭が増えている。高校の授業料無償化から1年、15歳以上で学校に行きたい生徒が高校に入るためにかかる費用はより重くなったように思われる。さらに、近年、東京入国管理局は永住、婚姻ビザ、そして子どもの呼び寄せの審査を厳しくしたことに伴い、子どもの在留申請が不許可になり困った父母から相談される事例が散見された。往復飛行機代を含めて多大な経済的出損を強いるだけでなく、日本語や教科の勉強が手に着かないほど子どもに過大な精神的打撃を与えている事例が見受けられる。申請不許可などにより子どもだけが帰国を余儀なくされるケースが2件、再申請中が3件、複数回の申請を経て許可が下りたのが2件だった。人道的見地及び教育を受ける権利の観点から、生徒の在留資格の把握に努め、呼び寄せ対象の子どもの在留についてこれまで以上に専門家との連携が必要かもしれない。

#### ④ 「たぶんかフリースクール」での担任制の及び講師の研修の充実に向けて

今年度4月当初は生徒数が極端に少なく、担任制は10月からのスタートにせざるを得なかった。外国から来日した子どもたちの抜本的な入試制度の改革がなされず、フリースクールの生徒数が増えて担任の負担は増える一方であった。担任の増員は不可欠である。また講師の先生方の授業の質を高めるための講師間の勉強会や教科会の保障も課題となっている。

#### ⑤ 教育相談・入学相談

教育相談、入学相談を経て「たぶんかフリースクール」の生徒になる比率は年々高くなっている。なぜなら中学を卒業した生徒が必要なのは毎日勉強ができる居場所であり、日本語指導であり、教科指導と高校受験情報であるからだ。多摩地区の学習保障の場も必要となっている。また、今年度は学齢の子どもでありながら、日本語を先に学ぶために入学した生徒も目立った。高校につなげるだけでなく、中学校につなげるためのケアも年々多くなりつつある。

#### ⑥ 日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス

ガイダンスは地域が中心となり、広尾2回・武蔵野・八王子・蒲田地区で計5回の実施となった。毎年参加家族が増加傾向にある。解説及び個別相談は高校教員を中心に対応していただき、ガイダンス修了後にCCSや「たぶんかフリースクール」、ピナット、IWCなどのサポート団体に繋がるケースも増えた。ただ、開催地域が増えた分の負担増やテキストの改訂を含め財政的な裏付けが必要であり、行政の支援及び助成金の獲得が必要となってきている。

#### ⑦ 子どもプロジェクト（土曜日の学習支援 15:30~17:30）

学習支援は、年々、学習者、ボランティアともに数が増え、活性化している。多い時は、A～Eまでの5つの教室、全ての机が埋まるほどの盛況ぶりである。日本語、英語や数学の支援に加え、入試における「作文」や「面接」の比重が高まるなか、その練習にも力を入れた。高校生や中学1、2年生の参加も多く、子どもたちの「居場所」としても定着している。

一方で、人数が多くなるにつれ、子どもたちへのきめ細かな目配りが届きにくくなる面も出てきた。また、教室が活況を呈するあまり、集中して学習をしたい子どもにとっては、必ずしも良い環境とは言えない状況も出てきた。「学ぶ場」と「居場所」、この両立が課題である。

## 外国人の家族と子育て支援事業(ファミリーサポート事業)

### ■親子日本語クラス

昨年度に引き続き、今年度も文化庁『「生活者としての外国人」のための日本語教育事業』を受託し、「親子日本語クラス」を行った。小学生やその親、フリースクール生や「子どもプロジェクト」生の親、その他の大人を対象とし、生活に必要な日本語をボランティアとともに、基本は1対1で日本語の学習支援を行った。

日 時：毎週土曜日 13:00~15:00

参加者数：学習者 合計 33 人 ※1回の学習者は10~15人

ボランティア登録総数 約 20 人 ※1回の参加者は5~10人

内 容：

大人クラス：子育てや生活に必要な会話や漢字を中心とした読み書きなどを学ぶ。

子どもクラス：日本語が分からないことで遅れがちな学校の授業についていけるように、算数と国語を中心に、宿題を含めて学校での学習をサポートする。



### ■多言語生活相談

親子日本語クラスの学習者や、フリースクール生の保護者を中心に、外国につながるのある家族から生活に関する様々な問題に対応した。相談内容は、日本語学校でのトラブルや、住居探しの際の保証人について等で、特に在留資格の変更に関しては深刻な問題が増え、行政書士を紹介して対応するケースも多かった。

#### 評価と課題

2年目となる「親子日本語クラス」では、一人ひとりのニーズが異なる中、各人のニーズに合わせた学習スタイルで受け入れることが出来た。ある程度継続した学習者については、実際に仕事につながったり、日常生活で分からないことを聞けたり、日本語を使う機会のない学習者にとって日本語で話す貴重な場となっている。子どもクラスでは、日本語が全くできず、勉強にも集中できなかった子どもが、意思の疎通が問題なくできるようになり、勉強に向かう姿勢も改善された。大人、子どもともに居場所となっている。中華料理店を開業して教室には来られなくなった学習者もいるが、定期的に連絡を取ったり、ボランティアが店に顔をだしたり、子どもの学習や学校での様子など相談にのる関係性が出来ている。

一方、大人クラスでは大変な就労環境の中で学習が続かないケースも多く、いつでも学習を再開できる環境づくりが必要である。また、地域の外国人親子への周知も課題で、次年度は積極的に広報していきたい。子どもについては、算数など教科学習を通して、学習言語としての日本語をどう教えるかが課題である。これまでも元教員のアドバイスを頂いたり、勉強会を開催したりしてきたが、今後も継続していきたい。また、遠方のボランティアは学習者に地域のことを聞かれても分からず、地域のボランティア獲得も課題である。



## 多文化共生のための人材育成事業

### ■講師派遣・研修受け入れ

全国のNPO、国際交流協会、行政、大学等が行う研修・講演会などに対して計55件、講師派遣などを行った。朝日カルチャーセンター「年少者の日本語日本語教授方連続講座」(全4回)および、足立区「外国人児童向け日本語ボランティア支援講座」(全4回)に講師を派遣した。フリースクールでは、年間計4名の大学生のインターンを受け入れた。

### ■多文化共生のためのボランティア講座等

月1回ボランティア講座を実施し、92名の参加があった。また、子どもプロジェクトのボランティアが中心となって、在留資格や公立高校の受験制度に関する勉強会を開催した。

## 多文化共生のための情報提供事業

活動と理念に対しての認知を高め、多くの方に賛同・支援をいただくため、ニュースレター、web、ブログ、メールマガジンなどの媒体を使用し、広報活動を行った。

#### 1. ニュースレター(みんぐる)

当センターの活動報告を中心に、多文化共生に関する広報誌を年3回、700部ずつ発行した。

#### 2. WEB/ブログ

活動報告等を、ブログ・web上で行った。ブログアクセス数約280件/日

#### 3. メールマガジン(多文化 NEWS from Tokyo)

外国人関係のニュースやイベント、団体の活動内容等を配信(月1回・購読者:約700名)

#### 4. メーリングリスト(多文化だより)

活動内容を報告する会員向けメルマガをML上に流しMLの活性化を図った。(月1回配信)

#### 5. 多文化映像制作

フリースクールの授業風景や受験の様などを撮影・記録し、団体紹介のDVDを作成した。

## その他の特定非営利事業

成田スカイアクセス開通記念「NN36 フェスタ IN ARAKAWA」(7月19日)、「第1回 荒川アジアフード フェスティバル」(9月23日)に、フリースクール生や講師、母親、ボランティアらがエスニック料理などの屋台を出店し、好評を博した。

### 評価と課題

ボランティア講座は毎回受講者が多く、フリースクールの勉強会や、ボランティア内での勉強会等多く実施できた。また、授業や高校受験の様子などたぶんかフリースクールの様子を撮影し、団体紹介DVDを作った。次年度にはドキュメンタリー映像作品を作成を目指している。webサイトのリニューアルと多言語版の充実については、日本語版はある程度出来たが、オープンと多言語化については次年度に持ち越された。

## 2010年度決算報告書

2010年度 特定非営利活動に係る事業会計収支決算書

2011年3月31日現在

(自2010年4月1日～至2011年3月31日)

## 1、収入の部(円)

科目	予算額	決算額
1.会費・入会金収入		
会費収入	1,300,000	1,168,000
2.事業収入		
教育事業収入	16,000,000	20,616,936
子育て支援事業収入	1,200,000	1,390,275
人材育成事業収入	3,000,000	2,497,186
情報提供事業収入	400,000	117,375
その他非営利事業収入	0	220,251
事業収入計	20,600,000	24,842,023
3.補助金等収入		
民間助成金収入	1,800,000	1,641,145
4.寄付金収入		
寄付金収入	4,500,000	11,229,592
5.その他		
受取利息収入		1,523
経常収支差額	28,200,000	38,882,283
6.その他資金収入		
繰入金収入		378,310
当期収入合計	28,200,000	39,260,593
昨年度より繰り入れ	7,326,413	7,326,413
合計	35,526,413	46,587,006

## 2、支出の部(円)

科目	予算額	決算額
1.事業費		
教育事業支出	18,000,000	18,527,467
子育て支援事業支出	1,200,000	1,289,761
人材育成事業支出	3,000,000	2,400,375
情報提供事業支出	1,200,000	374,616
その他非営利事業支出	0	128,620
事業費計	23,400,000	22,720,839
2.管理費		
給料手当	2,500,000	2,427,000
法定福利費	900,000	944,930
通信運搬費	120,000	37,451
水道光熱費	250,000	300,342
旅費交通費	50,000	71,730
備品消耗品費	200,000	31,457
租税公課	200,000	688,900
減価償却費	200,000	267,361
その他管理費	200,000	249,188
管理費計	4,620,000	5,018,359
3.その他		
教育援助基金拠出		1,500,000
引越基金拠出		6,117,042
当期支出合計	28,020,000	35,356,240
当期収支差額	180,000	3,904,353
次期繰越収支差額	7,506,413	11,230,766

2010年度 特定非営利活動にかかる事業会計貸借対照表

2011年3月31日現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
1.流動資産		1.流動負債	
現金	107,524	未払金	545,302
普通貯金	15,221,483	預り金	218,070
現金・普通貯金 計	15,329,007	流動負債 計	763,372
未収金	2,128,000	<b>負債の部合計</b>	<b>763,372</b>
売上債権 計	2,128,000	正味財産の部	
<b>流動資産合計</b>	<b>17,457,007</b>	教育援助基金	174,800
2.固定資産		引越基金	6,117,042
建物附属設備	505,973	正味財産	11,230,766
什器 備品	323,000	(うち当期正味財産増加額)	3,904,353
<b>固定資産合計</b>	<b>828,973</b>	正味財産 計	11,230,766
		<b>正味財産の部 合計</b>	<b>17,522,608</b>
<b>資産の部合計</b>	<b>18,285,980</b>	<b>負債・正味財産の部合計</b>	<b>18,285,980</b>

2010年度 特定非営利活動にかかる事業会計財産目録 2011年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金	107,524		
普通貯金	15,221,483		
未収金	2,128,000		
流動資産合計		17,457,007	
2 固定資産			
有形固定資産			
建物附属設備	505,973		
什器 備品	323,000		
固定資産合計		828,973	
資産合計			18,285,980
II 負債の部			
1 流動負債			
未払い金	545,302		
預かり金	218,070		
流動負債合計		763,372	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			763,372
正味財産			17,522,608

## 監査報告書

特定非営利活動法人多文化共生センター東京の2010年度決算について、監査の結果、事業は適正に実施され、収支計算書は一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認めます。

2011年5月13日

監事 小林千春

## 2010 年度 団体、企業等からの助成/寄付/協力

(敬称は省略しました)

### ■Gap 財団・Gap ジャパン

「たぶんかフリースクール」にてキャリアデザイン教育を行なう担任制に対する助成  
カラオケ交流会への協賛  
職業体験の実施と従業員のボランティア参加

### ■UBS グループ

子どもプロジェクト等への社員ボランティア参加  
フリースクール生への教育資金援助  
教育実態調査に対する寄付  
フリースクール・アクティビティへの寄付  
インターン生への支給時給への支援  
寄付

### ■第6回 FIT チャリティーラン 2010

寄付：フリースクールの移転および新設の準備資金

### ■株式会社ボイスペディア・・・多文化共生センター東京 web への広告掲載

### ■子どもの人権連

### ■公益信託オラクル有志の会ボランティア基金

「日本語を母語としない親子のための進学ガイダンス」への助成

### ■東京都公立学校教職員組合・東京都高等学校教職員組合

「日本語を母語としない親子のための進学ガイダンス」への協賛

### ■NPO 法人アースデイマナー・アソシエーション・・・寄付

### ■NPO 法人チャリティープラットフォーム・・・寄付

### ■TechSoup Japan/Microsoft・・・IT ソフトウェアの寄贈

### ■三菱 UFJ リース/東京都社会福祉協議会

従業員の研修によるフリースクールへのボランティア参加

## 2010 年度役員

代表理事	王	慧	謹
専務理事	柴山	智	帆
専務理事	飯田	秀	夫
理事	李	炫	澈
理事	鈴木	江	理子
理事	田中	阿	貴
理事	田村	太	郎
理事	原田	麻	里子
理事	福田	和	久
理事	山田	尚	子
理事	栢木	典	子
理事	松尾	沢	子
理事	風間	晃	
監事	小林	千	春